

第六話 啓蟄

二月終わりの日曜日、私は千葉・外房を走ってきました。夏の南房総国定公園は海水浴客であふれますが、毎年九月を過ぎると千葉県一の過疎地域に戻ります。いつ走っても、山も川も海も人はまばらです。今回は、いすみ市から勝浦漁港までの海岸 20km をコースに選びました。10℃に届かなくても快晴無風で、走るには絶好の日でした。

快調に勝浦に近づくと、道端の桜の木々は太平洋に向かってひっそりと咲き始めていました。そこから地肌の露出した(外房あるある)トンネルをくぐって、予定通り 11 時過ぎに勝浦港に入りました。勝浦港の食堂¹で少し早い昼食を、と思っていたのですが店の前が変です。人ばかりができています。事故かなと思って近づくと、観光客でした。店の前には「二時間待ち」の表示まで出ています。冬の漁港の食堂に、なんと行列ができていたのです。

「テレビで紹介されたのかな」とあきらめてそのまま勝浦の町中に進むと、道が人と車でいっぱいでもう走ることもできません。昼食第二候補は、ゴールの勝浦駅前の日本料理屋でしたが、そこも行列。私は勝浦²の昼食をあきらめ、そのまま東京に戻る列車に乗り込みました。

今年の啓蟄(けいちつ)は3月6日です。暖かくなって冬籠もりしていた虫たちが地上に姿を現す啓蟄ですが、人の世も啓蟄になったようです。三年続いた「冬」でした。新型コロナは医者の間では COVID-19 と呼ばれ、「19」は 2019 年末に始まったという意味です。昨年 6 月にこの場で「コロナ禍の終焉」を予想しましたが、予想通りで幸いです。コロナ禍の全貌を振り返ってみましょう。

日本では何といってもダイヤモンド・プリンセス号が端緒でした。2020 年2月3日に横浜に入港、乗っていた人たちはそのまま缶詰、下船が始まったのは翌3月1日でした。一カ月間の船内の感染状況は、日本のその後を予告しています。乗員乗客 3711 人の内の 712 人(19%)が感染、死者は 14 人(死亡率 2.0%)。感染者の半数は無症状(不顕性感染)でした。その後の日本は、三年間で患者数 3300 万人(26%)、死者数 72000 人(死亡率 0.2%)です。無症状の不顕性感染も同じくらいいたと仮定すると、日本人の二人に一人が感染したことになり、私たちの周りに感染した人が多いこともうなづけます。

個人的な話ですが、幸いにも私は感染していません。と言いますか前にも書いたように、PCR 検査は肯定する力はまあまあですが病気を否定する力は弱く、私も不顕性感染した可能

¹ 前日、話題の対話型 AI アプリの chatGPT に勝浦の食事を尋ねたら、第一にあげた店。「明日は日曜日だから予約を」と付け加えてきた。よくできた AI だが chatGPT はちょくちょく間違える。コロナ禍を知らないんだと私は思ったが、chatGPTの方が正しかった。

² あとで調べると、4年ぶりの「かつうらビッグひな祭り」が開かれていた。

性はあります。仕事柄どうしてもコロナの患者に近づく場合や自分自身の体調に少しでも問題がある場合など、これまで三年間で 10 回ほど PCR 検査をしましたが、すべて陰性でした。それでも感染を否定はできませんが。

ワクチンもすべて受けました。何回打ったのでしょうか、途中まで数えていましたが、5 回か 6 回です。副作用がいろいろ論じられますが、幸にも毎回、発熱も痛みもほとんどありません。本当に効いているのかと抗体価を調べたくもなりますが、抗体価がどうであれそれが私の行動に影響することはないので調べていません。

新型コロナ感染の全貌を振り返るとき、第一期から第三期まで三つに分けるとわかりやすいでしょう。

コロナが最も恐ろしい病気だったのは、2020 年 4 月の第一波から 2021 年 1 月の第三波までです。この時期を第一期と呼びましょう。今からみれば患者数はとても少なかったのに、その割には多くの人が重症化して亡くなりました。医療側も重症者にどう対応すればよいのか手探りでした。志村けんさんや岡江久美子さんが亡くなったのはこの第一期です。

私が第二期とよぶ次は第四波(2021 年 4 月)と第五波(2021 年 8 月)があり、重症者が最も増えました。それでも治療法が確立し、死者数は次第に減っていきました。第二期は治療法ができてきた時です。

最後の第三期はウイルスが変わった時です。第六波(2021 年 12 月)、第七波(2022 年 8 月)、第八波(2022 年 12 月～現在)ですが、日本の感染者数が大爆発しました。死者も激増しましたが、それでも「第六波の前で、コロナ禍は終焉」と言ったのは、重症化率が激減していたからです。医療が試されたのは第二期までで、コロナは特別に怖い病気ではなくなりました。「コロナで死ぬのではなく、死ぬ人がコロナになっている」に変化しました。これはちょっと誤解を与えかねない表現なので、追加の説明が必要です。

たとえば結核は世界三大感染症の一つです。日本は先進国の中では特別に結核の多い国で、コロナ前まで毎年 2 万人が新たに感染していました。とても伝染しやすく、同じ部屋にいただけで空気感染してしまいます。それでも治療法は確立していて、半年間ちゃんと薬を飲み続ければほぼ確実に治癒します。ただ治癒率は 9 割にとどり、毎年 2 千人が結核で亡くなっています。実はこれも「結核で死ぬのではなく、死ぬ人が結核になっている」のです。全身状態が極めて悪い人がもし結核になったとして、わざわざ結核の治療をするメリットはなく、結核を放置せざるをえないのです。

先月、厚労省から 2021 年の人口統計が発表されました³。新型コロナの死者数は約 17 千人⁴(2021 年、前述第二期に相当)ですが、これとは別にコロナが原因と言いながら実は別の病気が死因になっているのではないかと、あるいは逆に、他の死因とされたがコロナが影響

³ <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai21/dl/kekka.pdf>

⁴ 表 7 の注 4 正確には 16756 人

図4 死亡数及び死亡率（人口千対）の年次推移

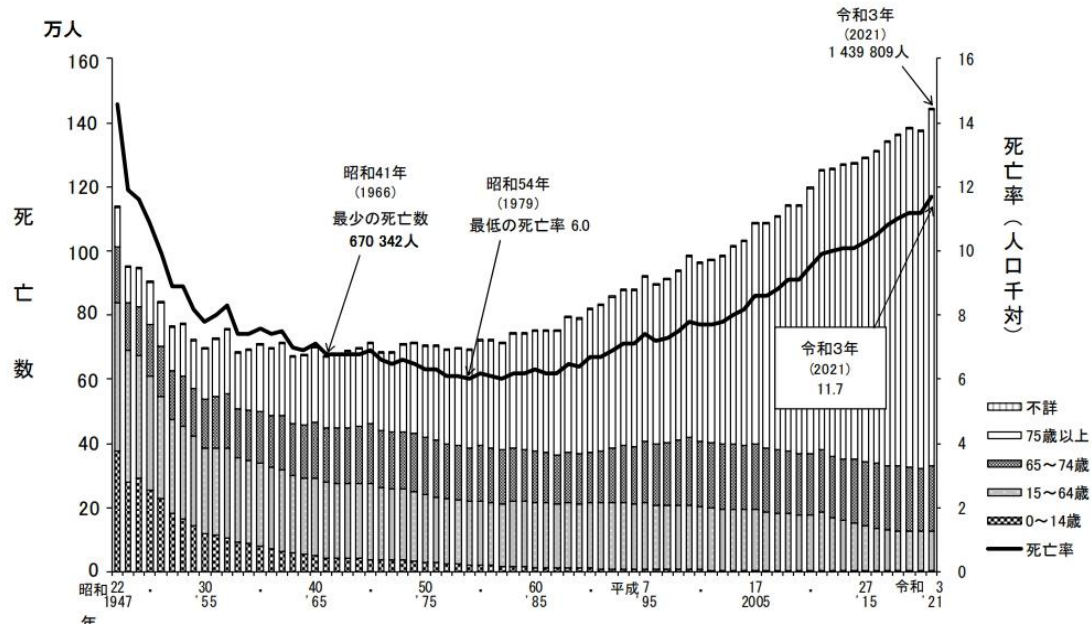
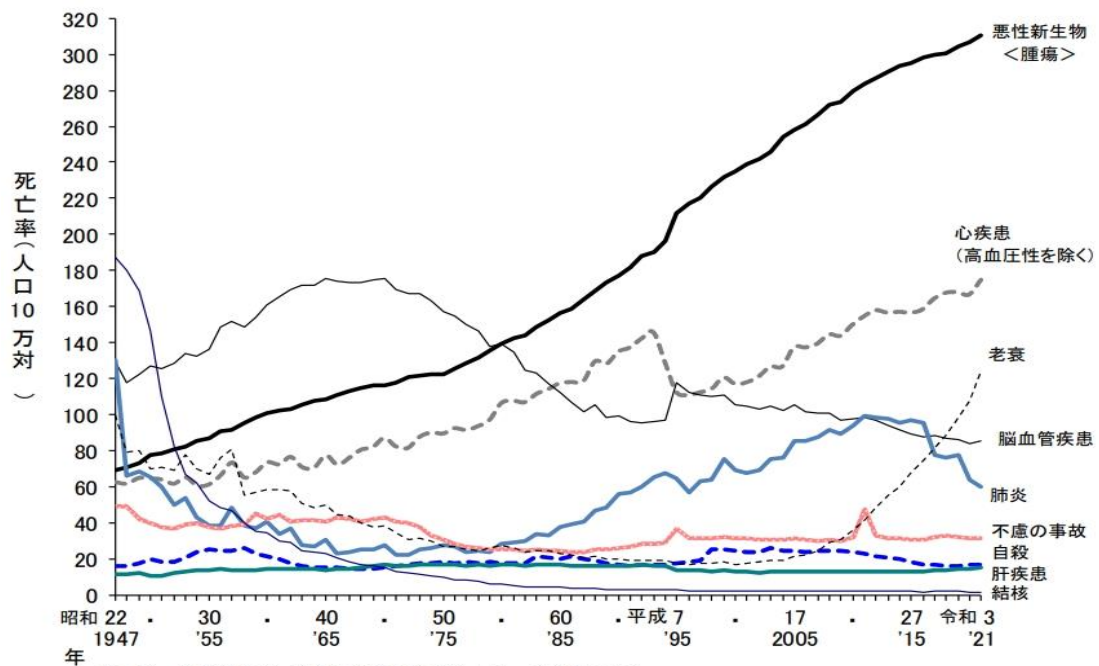


図6 主な死因別にみた死亡率（人口10万対）の年次推移



- 注：1）平成6年までの「心疾患（高血圧性を除く）」は、「心疾患」である。
- 2）平成6・7年の「心疾患（高血圧性を除く）」の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。
- 3）平成7年の「脳血管疾患」の上昇の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの特長によるものと考えられる。
- 4）平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10（2013年版）（平成29年1月適用）による原死因選択ルールの特長によるものと考えられる。

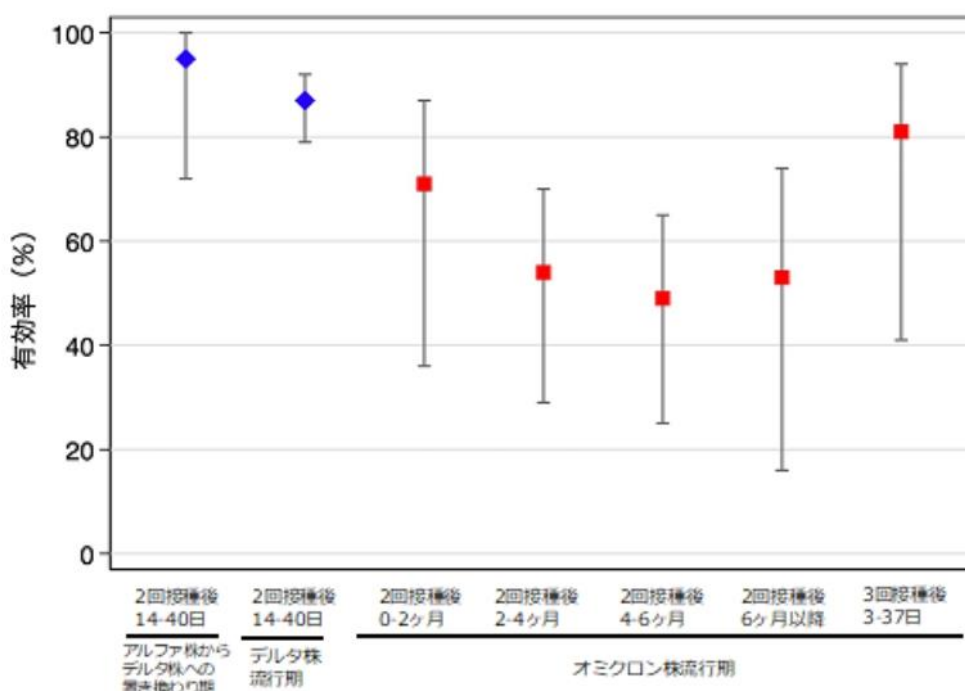
しているのではないかと、という可能性は十分に考えられます。ただ前頁上段の死者数の年次推移を見る限り、不穏な動きはないようです。確かに2021年の総死者数は、2020年との比較だけでなく過去最高ですが、これは今に始まった傾向ではなく1980頃年から年々更新され続けています。高齢化に伴う死亡者数増ですが、2021年も一定の増加傾向の範囲に収まっているようにみえます。前頁下段の疾患別でも、肺炎が減った以外には不穏な死因の変化は見えません。

一年後にまた2022年分の死亡統計が発表されるはずですが、新型コロナの死者数は激増する(第三期に相当)はずですが。私はその分、他の疾患の死者数が減ると予想しています。総死者数に大きな変化はないでしょう。ただ一つの懸念は、医療の渋滞のせいで救えるはずの患者が救えなくなっていたのではないかと数です。

ワクチンの話も振り返ってみましょう。患者さんから何度も「副作用は大丈夫なのか」と聞かれましたが、誰もその答えを知りません。動物実験などの研究が行われる前に一般に使われ始め、いきなり本番のワクチンだったからです。是非の結論が出るのはまだ先のことです。それでも途中経過は知りたいところです。

一年前に国立感染症研究所が出した第三報⁵によれば、下の図のようにデルタ株までは感染予防効果は高かったのに、オミクロン株になってからは効力が落ちています。最新の第

図2. ワクチン有効率（暫定値；過去の報告の推定値も含む）



⁵ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/10966-covid19-71.html>

五報⁶も確認してみました。2022 年のデータで有効率は 7 割に落ちています。これは 10 人が新型コロナウイルスを浴びたとして、ワクチンを打っていなければ 10 人とも感染するはずでしたが、ワクチンの力で 7 人は感染を防ぐことができた、ということを意味します。インフルエンザのワクチンもこんなものですから、効力はまあまあでしょうか。

よく話題になる副作用はどうでしょう。医学誌 NEJM に、副作用に関して 170 万人対 170 万人という大規模な比較が載っています⁷。24 の疾患⁸がワクチンの影響を受けているかリストアップされています。この中で影響の大きい順に五つを上げると

病名	ワクチン群	非ワクチン群	倍率
1. 心筋炎	21 人	6 人	3.5 倍
2. 心外膜炎 ⁹	27 人	18 人	1.5 倍
3. 虫垂炎	95 人	66 人	1.44 倍
4. 带状疱疹	283 人	204 人	1.39 倍
5. ベル麻痺 ¹⁰	81 人	59 人	1.37 倍

心筋炎や心外膜炎は前から心配されていたことです。170 万人中 15 人が¹¹発症していますから、10 万回に 1 度の副作用ということになります。最近、私が勤務する病院でも 20 代の女性が接種 3 日後に胸痛を起こして受診しています。心筋炎と診断され即日、大学に送られました。幸にもワクチン後の心筋炎は軽症が多いとされています。この女性もすぐに退院となったようです。しかし心臓だけに、要注意の副作用です。

逆に疾患が減る、いわば副産物(プラスの副作用)もあるようです。

病名	ワクチン群	非ワクチン群	倍率
1. 脳出血	13 人	30 人	0.43 倍
2. 急性腎障害	20 人	45 人	0.44 倍
3. 下肢・脳以外の血栓症	12 人	22 人	0.55 倍
4. 肺塞栓	10 人	17 人	0.59 倍
5. 貧血	298 人	378 人	0.79 倍

これによれば、たとえば脳出血はワクチンで半減するようです。ただこういった統計に

⁶ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/11688-covid19-9999.html>

⁷

[https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/nejmoa2110475#:~:text=The%20main%20potential%20adverse%20events,and%20myocarditis%20\(2.7%20events\).](https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/nejmoa2110475#:~:text=The%20main%20potential%20adverse%20events,and%20myocarditis%20(2.7%20events).)

⁸ 表 2

⁹ 心筋炎は心臓の筋肉の炎症、心外膜炎は心臓を包む膜の炎症で、両者は類似疾患

¹⁰ 顔面神経麻痺とほぼ同義語

¹¹ 非ワクチン群の 6 人に比べワクチン群の 21 人は 15 人増なので

は常に誤差があり、心筋炎と心外膜炎以外の疾患は良くも悪くもあまり考慮しなくてよいのではないかと私は思います。

関連して九大の教授が興味深い数字を挙げています¹²。ワクチン接種一カ月以内¹³の死者数を、一般の集団の死者数(コロナ前の2019年の統計)と比較しているのです。この表の数

表3 ワクチン接種群と一般集団の心疾患、脳卒中による死亡率

		死亡件数	観察期間(人日)	死亡率	率比
虚血性心疾患	ワクチン接種群	67	1,753,177,770	0.038	0.03
	2019年一般集団	67,326	46,082,710,000	1.461	-
出血性脳卒中	ワクチン接種群	50	1,753,177,770	0.029	0.04
	2019年一般集団	34,380	46,082,710,000	0.746	-
虚血性脳卒中	ワクチン接種群	30	1,753,177,770	0.017	0.02
	2019年一般集団	32,015	46,082,710,000	0.695	-

字だけみれば、心筋梗塞も脳卒中も1/20とか1/50に死者数が激減しています。しかし「心筋梗塞や脳卒中の予防のために新型コロナワクチンを受けよう」とはなりません。2021年は多くの方がワクチンを受けたはずで、それでも3頁に示した脳卒中や心筋梗塞死の死者数に大きな変化はありません。考えられる可能性はふたつです。①打った直後の一カ月はすごく元気になり、その後元気がなくなる ②打つ人はもともと元気で、元気のない人は打たない。この二択なら後者でしょうが、そもそもワクチンに関する前向きな無作為試験が行われることもなく、コロナ禍は終わってしまいました。

何回か私は「コロナで死ぬのではなく、死ぬ人がコロナになっている」と書きましたが、これはもちろん一般論です。「がん患者が、栄養失調で死ぬことがあってはならない」と異端の医療を実践した私です。もし20年前にコロナが流行ったなら「がん患者が、コロナで死ぬことがあってはならない」と言ったに違いありません。

ということで、今回は「栄養失調」のお話をしたいと思います。

¹² <https://www.jcer.or.jp/blog/babazonoakira20211124.html>

¹³ 2021/2/17～2021/10/3

追伸

最近、ある新聞で「がんと共に生きる」が普通名詞として使われていた、と教えていただきました。隔世の感があります。一員としてこんなうれしいことはありません。

同じように「三密」も普通名詞として残るのでしょうか。中でも「密閉」は忘れてはいけない習慣だと思っています。